

## 第5回白石町総合計画審議会 会議録（要旨）

■日 時 令和7年11月25日（火） 午後7時00分～午後8時43分

■場 所 白石町役場3階 大会議室

■出席者 委員：16人出席

町：副町長、企画財政課職員5人

担当課長：総務課長、総合戦略課長、生活環境課長、学校教育課長  
新しい学校づくり課長、生涯学習課長

○開会

【進行：企画財政課長補佐】

○会長挨拶

会長から挨拶

～資料の確認～

○審議事項

進 行：ここからは会長に会議の議長をお願いします。

会 長：（1）基本計画素案について【資料3】について

事務局：～資料をもとに説明～

会 長：事務局から説明があったが、説明のあった施策順に質問を取っていきます。まず  
施策23について委員から質問・意見はありませんか。

委員A：成果指標について、皆様が考えられる学力として学習状況調査等の正答率が一つの指標となっているかと思います。ただし、教育課程の中では非認知能力（例：夢や目標を持っているか・困難に粘り強く取り組めるかなど）も学力として重要視されています。

白石町では認知能力（テストの点数など）のみを学力として捉えていると思われる気がするので、指標に取り込む検討の余地があると思います。

委員B：いじめや不登校への対応を心のケアへの必要性というところで不登校になった児童生徒が、学校に行けずとも学べる環境っていうのは、今白石町はどのようにされていますか。

学校教育課長：まずは、防止策として学校にスクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーの方がいらっしゃって、いろいろな相談ができる体制を整えているところです。

また、不登校になられて学校に通えない方に対しても、交流館（旧有明町役場）に『コンフォートスペースあい』という支援室を準備しており対応をしている状況です。

委員B：おそらく今後もしじめや不登校だったり、支援学級に通うお子さんも増えてきている状況だと思いますので、学校内にも教室を多く設けて、そこに通えるような状況や場所作りが必要かなと考えております。

委員C：中学校の中にも正式名称を失念しましたが不登校生徒が通える教室があったはずですよ。

～事務局確認内容～

『なごみ』…不登校生徒や学校には来れるが、教室に入れない子が利用できる別室教室

委員D：学校の再編についての質問です。中学校が再編して、今後小学校を行っていく中で新しい課題が出てきたと記載があるが、具体的にどのようなことかお聞かせください。

学校教育課長：まずは、複数の学生が同じ校舎で学ぶというわけで、生徒の慣れ親しみを心配しております。

そして、配慮が必要となる生徒などの対応として、通級指導教室や新しい対応をする教室を設けるなどが新しい課題と考えています。

委員D：子供たちは大人より案外簡単に仲良くなっていくと思っているので、期待しております。

委員E：CEFRについて、私が学生の頃は英検しかなかったもので、このガイドラインは県が導入しているから白石町としても導入しているかの質問になります。

また習熟度がA1～C2まで6段階あり、A1は英検3級程度とのことですが、どちらが一番上としてみるのか教えてください。

学校教育課長：CEFRでは習熟度A1が一番下となり、全国的な中学生のレベルくらいとなります。

C2はネイティブ英語で経済なども織り交ぜた部分で話せるくらいの熟練度となっています。

また、CEFRはヨーロッパ共通言語で国際的に評価される部分があるため、指標

に扱う経緯となっています。

委員B：ここに記載してある成果指標はおもに中学生の取組となるとと思いますが、現在小学校3年生から外国語活動というのが入ってきており、5・6年生では教科として学習をしている状況です。

現職で教員をしていますが、以前塾のアルバイトをしていた経験もあり、その際に中学生で簡単な単語が分からない状況に文法が入ってきて困ることが多く見受けられました。

その中でのA Iの活用をどう取り込んでいくか見解をお願いいたします。

学校教育課長：A Iの活用による英語強化事業については100%国の事業費補助でおこなっています。

主に中学校においてA Iアプリ（ワールドクラスルーム）を導入しており、音読やプレゼンの練習などを行い、スコアリングした結果を教師がすべて閲覧できる状況となっています。そのため、A Iアプリを使用して生徒が自主的かつ対話的な深い学びを行う事ができる環境を提供しているところです。

小学生につきましては、A L Tの先生であったり、全生徒が端末を持っていたりするので、生成A Iなども含め活用していただき、ネイティブな英語を聞きながら今後9年に備えていけるように活動をしている状況です。

委員B：個別最適で協働的な学びっていうのは、別のものと思います。個別最適っていうのは、1人で学習を自分のペースで自分のやり方で進めていくという学び方で協働的な学びっていうのは対話をするっていうような学び方なのでそれが全く相反するものが両輪となって一体的に実現されることに違和感がありました。

また、子どもたちの思考判断表現力の箇所も指導要領に合わせたら、思考力、判断力、表現力みたいな感じにした方がいいのかなと思いました。

委員A：昨今の授業は、今までの先生がリードしながら教える授業から子供たちが自ら学ぶ授業に大きく転換しています。

そのなかで個別最適な学びとして、ときにはAIと対話しながらスピーキングの練習を1人で15分ほど行い、協働的な学びとして、他の子供たちに自分で考えた作文を伝え合ったりとか、指摘し合ったりして学ぶなど、50分の授業中で15分刻みに大きく展開していきます。

全国的に、この授業のあり方が大きく変わってきておりますので、白石町でも今年度から取り組めることをありがたく思いますし、これからどのように日本の教育が変わっていくか、あるいは学校現場の授業が変わっていくかということを実感していただけるそういう時間が来ると思っています。

会 長：次に、施策26について委員から質問・意見はありませんか。

委員F：スポーツ大会が8年ぶりに開催されました。有明・福富地域については従来通りのグラウンド開催で、白石地域は4校区合同での開催となりボッチャなどのニュースポーツを取り入れるような形で行っています。

開催が10月ということで、近年の温暖化による猛暑により、夏場も学生の部活動自粛があったり、放送とかでも不要不急の外出を控えるように流れております。

そのなかで、室内で出来るスポーツを取り入れていくことも考えるべきではないかと感じました。

次のぺったんこ祭りについて、11月16日にふれあい郷で開催され、スポーツ委員は遊喜館前でスポーツ体験会を開催させていただきました。子供から大人まで幅広い年代の方に参加していただき、他の参加者の方たちと交流されてる姿、スポーツを純粋に楽しんでおられる姿を見て、私達スポーツ委員も開催してよかったなって思っているところです。

そのなかで一つ問題がありまして、今回参加者数が少なく感じました。令和7年が約100名、令和6年が202名、令和5年は429名となっています。おそらく、開催場所が令和5年度は入口近くで、昨年から最奥（ステージ奥）に変わったので、わかりにくいのかなと感じておりました。

場所の移動は、難しいと思われますので、案内板のわかりやすい表示や、放送で周知をしていただければと思います。

生涯学習課長：町民スポーツ大会についてですが、今年は非常に晴れて暑さがありましたので、涼しい時期に変えられないか、室内の競技案など、今後の検討材料にしていきます。

現在の実施期間が10月となっており、昔でいう体育の日で行っています。これを11月になると、ぺったんこ祭り含め行事イベントが多数入っているため調整することが非常に難しいと考えております。

ぺったんこ祭りでのニュースポーツの交流についてですが、あくまで一つのコーナーになりますので、どれを重要視するかもあり難しいところがあります。

そのため看板など利用いたしまして、多くの皆さんに体験をしていただくというのは必要かなと思っておりますので、今後も町民スポーツ大会やぺったんこ祭りが盛り上がるように工夫していきたいというふうに思っております。

委員G：町民スポーツ大会が8年ぶりに開催されましたが、少子化に伴い人口が減少している中で、小中学生を一緒にしたほうが良いのではと考えております。質問は10月12日のスポーツの日に開催しないと国・県から補助が出ないなど聞いたことがあるが、現在はどうなのか。

それから、今スポーツ推進のまちづくり宣言をされてありますが、従来からのソフトボールやバレーボールなどから、怪我がないような半分レクリエーションのような協議になっている感じがします。

室内競技でもよいが、人数が限られるため町民全体が集まるような機会が減ってくるのではないかなと思う。そのため、今後子供たちとの繋がり、地域との繋がりがだんだん薄くなっていくような気がしています。

生涯学習課長：町民スポーツ大会の補助について、今現在、国県からの補助等はあっておりません。すべて町の一般財源で賄わせていただいております。聞いたことはありませんがもしかしたら過去あったかもしれないですね。

そして、町主催のスポーツは今話された通り、グラウンドゴルフであったりボッチャであったり軽スポーツ・ニュースポーツを行っています。こちらは子供から高齢の方まで多くの方が参加可能であるというところで、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

また、男子ソフトボール大会についても各地区の選手集めも未経験者であったり、若者がいないなど非常に難しくなっています。

そこで代わるものとして、ワンバウンドふらばーるバレーボールを今年度行ってみることになりました。未経験の方でも参加しやすく、体を動かせるスポーツとなっており、試行錯誤しながら皆さんに参加をしていただけるような大会を作り上げていきたいというふうに思っているところです。

委員G：若い人だけに絞ると人が集まらないという問題が出てくるため、もっと幅広く若い人からお年寄りまでみんなできる人が参加してもいいというような形だと結構集まると思います。

以前の競技をやめて私達は知らないようなスポーツに置き換わっているような気がします。スポーツするうえで多少の怪我はあると思いますので、日頃の運動を行わないといけない、そう言うところからスポーツ推進に繋がるのではと思っています。

委員F：成果指標について、町主催のスポーツ大会参加者数が2488人となっていますが、おそらく半分は歌垣の里ロードレース大会が占めていると思いますが残りの内訳を教えてください。

生涯学習課長：2488人の内訳といたしましては、ロードレース大会が1412人で、残りはニュースポーツ体験であったり、グラウンドゴルフ大会ボッチャ大会、あとパークゴルフ選手権大会など、各自地域の公民館で行う部分と、生涯学習課で行う部分を集計しております。

会 長：次に、施策27について委員から質問・意見はありませんか。

委員C：町史編さんは具体的に何か決まっていますか。何年後に行うかのスケジュールのようなもの。

生涯学習課長：町史編さんについて、検討委員会を今年度2～3回開催予定としています。そこから、令和8年度に予算計上を行い、編さんを行っていききたいと思います。

委員D：文化財の保護ということで、古い神社など老朽化や年数がたったところが多いのが、境内にある大木の倒木など危険性があるものの対策はどう行っていく考えですか。虹ノ松原の件もありよく考えていただきたい、また補助等あれば教えていただきたい。

生涯学習課長：まず、大木などは天然記念物として扱われ、数百年という木であったら、既に県や何かしらの指定を受けているはずです。仮にそのような場合は所有者が危険木を切るなどの作業される場合は、補助金が出ます。

しかし、指定されていないような大きな木であった場合は、基本的に管理者側でやっていただく形になります。このケースは多数あると思われるため補助金等は難しいと考えております。

委員D：怪我されてからでは遅いので、事前に防止できれば一番いいかなと思います。

委員B：文化財について、山手側に多くあると思います。近年人が集まる場所といえば、道の駅であったり白石駅であったり、そのような場所に看板を設置してアピールすることが大事かなと思います。

県としても明治維新 150 周年をはじめ、今年も江藤新平の没後 150 周年ということで、白石にも関わりがあるところをもっとアピールをしていくべきだと思います。

また、広報しろいしに毎月掲載されているあるある文化財についても、ホームページ等で掲載記事をまとめたところがあればと思いました。

生涯学習課長：須古城について、まだまだPR 不足と感じております。町内でも海側の方は興味がない方もたくさんいらっしゃるのかなと感じております。今回の国の史跡指定に向けて調査を行うなかで、併せてPR も行う必要があると思っております。

また、看板等についても不十分と感じていますので商工観光課・観光協会と一緒に見やすい看板が設置できたらと思います。

あるある文化財について、過去の分まで見れるような形で出来ないか前向きに検討したいと思います。

会 長：次に、施策 29 について委員から質問・意見はありませんか。

委員C：成果指標にある地域づくり協議会の現状値“3”は有明を含む数値ですか。

総合戦略課長：有明が 11 月 30 日に設立総会を行うので、これを 1 カウントとしています。

委員D：今現在、このような協議会いくつあるか。

総合戦略課長：現状、須古・六角の 2 カ所となっています。有明については統合再編を踏まえて

有明地域として一つで設立されています。

会 長：次に、施策３２について委員から質問・意見はありませんか。

委員Ｃ：成果指標にある交流事業数の“４”は令和４年～７年までの累計なのかどうか。  
また、町が実施した分と、民間で実施した分を合わせた数字でしょうか。

総合戦略課長：現状値についてですが、これは町主催で行ってきたイベント数になっています。  
実は、多文化共生の事業として各種日本語教室であったり、外国人を対象とした、餅つきやバドミントン大会など活発に行っています。なかなか皆様へのPRの機会はありませんが、外国人の方には浸透している部分もあるので、そういった小さなイベント等々は含めておりません。

委員Ａ：全体通して、国際交流と国際理解が出てきていて、読みにくいと感じた。どちらのことを話しているのかを精査する必要があると感じました。

総合戦略課長：多文化共生という一つのカテゴリーがありまして、その中に多文化共生やっていますよというまちづくりを行うところ、国際交流の推進していくところの二つがあり施策に落とし込んでいる形です。そのため表現にわかりにくいところがあるかもしれません。

委員Ｄ：国際交流の推進の中に台湾とありますが、ほかにありますか。最近の話題ではないですけど中国とか、白石町に在住しているかたが分かれば教えてください。

総合戦略課長：今、白石町で多いのは農業従事者となっています。技術関係の方が多いため、ベトナム、インドネシアの方が多いため状況です。その中で中国人の方もいらっしゃいます。

また、実際９月末頃に台湾嘉義県民雄郷（かぎけんみんゆうきょう）に出向きまして友好交流協定の協議をするために台湾の方に行かせていただいております。

台湾の経済文化弁事処からお話をいただきまして、友好交流を進めようということで、来年の友好交流協定への締結に向けて話し合いを進めていく、また、お互いに行き来するというようなことを想定しております。

学校教育課長：韓国の和順郡（ファスングン）から、教育長と課長５、６名が交流を深めたいとのことで来庁されました。

その中で、中学校において和順郡から中学生１４名、そして学校教育課長と付き添い８名で白石中学校の文化発表会の見学に来日されました。

徐々にではありますが最終的には国際交流協定、いわゆるMOU（覚書や基本合意書）等を行いたいと思っております。

会 長：最後に、施策 3 3 について委員から質問・意見はありませんか。

委員 C：成果指標の延べ床面積について記載があるが、H28 年から何%減らすといった目標値があって、そこから 10 年近く経っているのでわかりやすい何かあれば。

なかなか統廃合で作っている事もあると思うので評価しづらいのかもしれないけれど、この辺りいかがでしょうか。

企画財政課長：現在の公共施設状況ですが、数値目標 R18 年度末で延べ床面積が 7 万 7000 m<sup>2</sup>で、当時の削減数の目標が 3 万 6470 m<sup>2</sup>と 1 人当たりがですね、4.4 m<sup>2</sup>ということから出てきた数字ではございます。

現状値にある、10 万 9155 が令和 7 年の数値となりますが、7 年度中に福富中学校の校舎解体をしておりますので、そこまでの数字で算出しています。

委員 B：配置の適正化についてですが、夏場の熱中症避難所を開設されていたと思いますが、有明地域がなかったように思ったのですがどうでしょうか。

もう一つ、白石には佐賀農業高校と白石高校の 2 校ある中で、駅電車の利用の子たちが白石駅に入りきれてなくて、地べたに座っていることをよく見かけます。

交通量も多い道沿いで、白石町として目に入るところもあるので、白石に学びに来てくれている子供たちに良い場所の提供ができないかと、思っています。

総務課長：熱中症の予防休憩所の件で 5 月から 10 月下旬を基本といたしまして、白石町役場の 1 階ロビーとですね、福富ゆうあい館のロビー、そして有明にある交流館の 3 ヶ所を開放をさせていただいております。

総合戦略課長：白石駅について、高校生が地べたに座ってというようなところは非常に課題点として感じておりまして、2 年前から町の方では駅前の整備の基本計画を作成しております。事業主体等々を実際実現できるかはちょっと置いておきまして、協議中でございます。

高校生が JR を使用する率が非常に広範囲になってきてまして、6 割を超えております。その背景もあり、白石商店街にローカルコミュニティスペース作りを行い高校生が集える場所を創出したいと現在考えているところです。

委員 B：高校時代に武雄市へ行った際に、武雄市役所が駅の近くにあって、その 1 階が開放されていて勉強ができる場所があったので、白石にもあったらいいなと思い意見が聞けてよかったです。

会 長：全体通して委員から質問・意見はありませんか。

会 長：その他に移ります。



事務局：委員H・委員Iから事前質問がありましたので報告します。

- ① 町内で子どもが遊べる屋内施設はいくつあるか。
- ② ゆめてらすの認知度と利用者数を教えてください。

1、現状、ゆめてらすのみとなっています。

2、ゆめてらすは2パターンの利用方法があります。

まず一つ目は“ゆめひろば”と言われる保護者が見守る形で利用をされる場合、いわゆる保護者同伴で利用をされる場合は大人子供合わせて1855人。

もう一つのパターンが一時預かり“ひよこぐみ”といった専任の保育士の方が子供だけを預かる場合が232人。

合計の2087人が、ゆめてらすの令和6年の利用者数となっております。

事務局：今後の流れについて説明

○閉会